



食包協会報 第174号（2022年4月号）ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび174号（2022年4月号）を公開致しました。今号では4編の記事を掲載しております。

まず、最初の記事では「身体を包む『衣』」と題しまして、茨城県笠間市在住の紙布（しふ）作家であります妹尾直子氏に紙布の歴史や概要を製品の実例を紹介しながら解説いただくとともに、「包むもの」という観点を交えて同氏の紙布への思いについて記していただきました。本会報では、これまで技術に関する話題を数多く取り上げて参りましたが、本編は伝統工芸分野の話題ということで新鮮味もあり、これからの会報の方向性にポジティブな変化を与えてくれそうな情趣ある内容となっております。

次の記事では、「軟包装の循環型社会を考える：PE単一素材包装」と題しまして、ダウ・ケミカル日本株式会社ポリエチレン事業部の宮下真一氏に同事業部のサステナブル戦略について、製品の実例と特性を挙げながら解説いただいております。プラスチックの環境負荷低減のためのサーキュラーエコノミーという同社の信念に即した取り組みが具体的かつ詳細に説明されており、通称「プラスチック資源循環法（プラ新法）」が施行された今月の号に非常に相応しい内容です。

その次には、「青果物の輸送環境解析および品質評価事例集（第2版）のご紹介」と題し、私が所属する農研機構食品研究部門が公開しております、青果物の輸送環境解析や品質評価に取り組んだ論文等の事例を集約したコンテンツおよびその使い方を紹介しております。このコンテンツが青果物の国内外への長距離輸送や品質保持包装設計の一助となりましたら幸甚に存じます。

最後に「<新刊紹介>包装関連研究 論文執筆のための用語集」として、日本包装学会創立30周年記念事業として私が企画・監修いたしました日-英および英-日の単語帳の刊行案内をさせていただきます。手前の著書の紹介ということで甚だ恐縮の至りではございますが、こちらもぜひご覧ください。

弊協会 Web コミュニケーション委員会では、公平・中立の原則のもと、どのような企画をすれば皆様に関心を持っていただけるかといったことを常に問いながら、これからも魅力ある記事の発信に努めて参る所存です。引き続きよろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受け下さいました妹尾様、宮下様に心から厚く御礼申し上げます。

2022年4月28日
評議員代表 北澤 裕明